

釣れ釣れなるままに

1999年思い出の釣行記 PART. 1

職務上の立場

鹿島釣狂

釣遊会第1回大会

☆開催日 平成11年4月4日

☆開催場所 寿都港～千走漁港

☆入釣場所 豊浜大岩場

☆潮 干潮 23:29 - 5cm

満潮 06:04 13cm

干潮 11:28 3cm

☆釣果 カジカ 273 mm

ハゴトコ 250 mm

重量 500g

点数 573点

☆成績 10位

職務上の立場

職場のボスが3月をもってご勇退された。彼は経営者としての卓越したリーダーシップを発揮して部下を指導してきた。また、私にとっては直接の上司であり、公私にわたり様々なご教授を戴き大変感謝申し上げている。4月になり新任のボスが赴任してきた。彼は、以前にも、同じ職場の先輩として大変お世話になったことがある人物だ。職務のうえでは口角泡を飛ばし激論し、非公式な場では酒を酌み交わしながら日本の行く末について語り合った仲間である。今となつては、直接の上司にあたるため、めったなことは言えないが同じ釜の飯を食ったという気安さからか、職務上の悩みも含めて何かとご相談に乗っていただいている。

2年間、仕事の忙しさもあったが、上司への遠慮や気兼ね等もあり、釣遊会第1回大会

には参加することができなかった。今回も大会参加の打診を躊躇していたが、それを見抜いた上司が「たまの休日ぐらい鋭気を養ってこい」とのありがたきお言葉をいただき参加することに決定した。

仕掛けの開発 針の大きさは？

釣遊会としても珍しい4月初旬の大会である。日本海ということで今回特別に開発した仕掛けを持参した。アカハラ用にと天秤おもりにイカゴロ針をつけ、上部にも天秤仕掛けをつけた。この天秤仕掛けには0.6mmのピアノ線を使い、小魚が餅をついた少しの揺れでも、その振動がもう一方のハリに大きく伝わるように工夫した。ハリは、普段チヌの8号を使用しているが、アカハラやホッケの口でも吸い込みやすいように、丸セイゴの15号をつけた。ハリスも太平洋のように昆布ワラから引き抜く訳ではないので5号から4号に落とした。

私は最近、仕掛け作りにハリで悩むようになってきた。

☆ゴロ針は本当に海津が適当なのか？ 親針はゴロの頭に差すだけだから18号ぐらいの大きなものでよいが子針は魚が吸い込みやすいように16号より落として15号や14号にすべきではないか？ しかしカジカのように大きな口ではすっぽ抜けるのではないか？

☆根がかり対策もありチヌ針を使うようになったが、果たして対策になっているのか？ 太平洋では8号を主体に使っているがもう少し小さくてもよいのではないか？ 針がかりは丸セイゴが一番だと考えているがどうか？

☆針素に様々なビーズや浮き球を使っているが、効果の程は？ 魚がエサに食いつくときに大きな浮き球が邪魔にならないか。反対に浮き球が邪魔をして針がかりを悪くしているのではないか？

釣遊会に入る前は、15号の丸セイゴとカレイ用に流線針しか使うことはなかったが、太平洋のあの大きなカジカとアブラコを見るようになってからチヌ8号を使うようになっている。また、大会では小物は必要なく、なるべく大きな針と大きな餅をつけるようにしている。大振りに切ったカツオの餅はチヌ9号に似合っているようにも思える。

入賞確実のはずの場所も

湯浅氏と共に豊浜郵便局前で降りる。ここは2回程入釣し、アブラコは間違いなく釣れ、ホッケはこの時期どこでもつれるのでまずまずの成績を上げている場所だ。

今年の安全と好釣果を祈ってワンカップ1杯全てを海に捧げる。スレてきた魚を惑わすためでもある。最近ではエサに酒を振りかけたり、撒き餅に酒を入れるという兵もいるくらいだから釣りに悪影響はないだろう。「酒のつまみにカツオのタタキを」とエサに食いついてくれればよいが。私もワンカップを一杯、一気にグビグビッと喉元に流し込む。

年頭の儀式が終わり、早速ドボンと打ち込むが一向にアタリがない。何時間経つ

でもピクリとも来ない。こらえ切れず、後ろの方の小さい溝に仕掛けを投入し、しばらくおいておく。上げてみると小さなカジカがついていた。それにしてもアタリがない。これだけ撒き餅を撒いているのだからホッケぐらいかかってもよさそうなものなのに。空が白々と明けてきた。まだ釣果がなく呆れ果てた湯浅氏が新たな場所を開拓に去って行った。

全くアクリがないまま太陽が昇り始めた。仕方なく湯浅氏のところに様子を伺いに行く。湯浅氏はカジカの35cmぐらいの物を2匹仕留めたとバツカンを差し出す。早速場所を多動し、隣に入れてもらう。そこでもやつのことでハゴトコ1匹釣っただけで終了時間となる。

大会成績

今回は惨敗釣行記となる。それでも今大会は皆さん成績が悪く、ハゴトコ25.0cm+カジカ27.3cm+500g=573点で9位入賞となる。普段ならどん尻のどん尻となるところが0点(坊主)の会員が7名も出るという釣遊会史上初めてのことではないかと思われる事態であった。それにしてもホッケがこの時期全くいないのには驚かされた。会全体でも2匹ということであった。

優勝は山中に入った嵐氏で936点、準優勝は床丹に入った堀内氏で853点、3位は矢追に入った堀氏で853点、身長賞は39cmのカジカを釣った渡邊会長であった。

次回こそは何とか上位入賞を目指して頑張ろう！

大会成績

優 勝	嵐 光博	936点	山中
準優勝	堀内正博	853点	床丹
3 位	堀 孝行	853点	矢追
身 長	渡辺幸雄	39.0cm (カジカ)	千走